

協働で進める郷土の恵みの森づくり 深沢で大杉までの道をつくる



作業前にみんなで挨拶。
今日の作業手順を確認します。



つるはしと唐鍬で道づくり。
竹の根は固くて作業が大変です。



今年度も協働で進める恵みの森づくりが始まりました。第1回目の整備箇所は深沢で、新規の整備になります。ここでの見どころは、以前深沢で整備した「山抱きの大カシ」に匹敵するほどの魅力ある大杉「千年の契杉」です。

このスギはもともと地元の人には知られており、森林レンジャー1年目のときにこの存在を教えてもらいました。古い作業道を進み、なかなか大杉の姿を確認することはできないのですが、突然その大きな存在に気づかされます。このスギは幹が2又にわかれているのですが、枝と幹が途中で癒合してHのような形をしています。

事前に地元と西多摩マウンテンバイ

ク友の会の方々が整備する道順を確保していただいたおかげで、今回からの作業は順調に進みました。5/18のサポートレンジャー参加の整備は、深沢の方々の熱意と作業スケジュールの段取りのおかげで手際よく整備を進めることが出来ました。この日は主に道づくりと橋の補強を行ないました。もともとあった古い作業道は狭かったり、斜めだったりするので、少し広げて平らにする作業を行ないました。そして、沢に設置していた蛇腹管をみんなで引っ張り出して撤去し、事前整備で設置していた丸太橋の補強を行ないました。現時点で、大杉までの道程の1/3ぐらいまで整備が終了しました。

今回の見どころ「千年の契杉」



2/22の下見の様子。古い丸太橋は朽ちてしまっています。

丸太橋の設置作業。手すりの補強のために筋交いを行います。



クマのクリ植栽

～コレンジャーと市民の方々が植えたクリの木～

1月14日にコレンジャー（2期目）がクリを植えてきました。しかし、残念なことにこの春に芽吹いていませんでした。まだ枝に弾力がありますが、多分、枯れていると思われます。また、3月16日に馬頭刈山の下に植えた9本のクリは、5本が芽吹かずに、3本は頂端の芽吹きはないが、株元から不定芽が出ており、残りの1本は健全に芽吹いていました。



← コレンジャーが植樹したクリ



→ 市民の方々と植樹したクリ

コレンジャーが行った植栽については、今さらながら大苗を山林に植栽する難しさを感じます。コレンジャーで植栽して枯れた1本のクリについては、この秋にでも私達レンジャーと2期のコレンジャーに声をかけて有志で再植栽できればと考えています。これは、木を植える者の責任として補植を行い、「クマのクリ」を完成させることを目的に考えています。

自然を相手にするとき、簡単に思いどおりにならないことを理解するよい機会だと考えます。また、馬頭刈山での植栽については、急激な環境の改変が自然に与える影響を考えると4本のクリが育てば十分ではと考えています。しかし、これ以上クリが枯れることは望ましくなく、これらのクリが育ってくれることを願っています。そして、これからも、これらの4本が育つことを見守っていきたいと考えています。



↑ 健全に芽吹いたクリの木
ちなみに巻いているネットはシカよけネット



↑ クリの株元から不定芽が出芽
頂端には芽が確認されず

第3期コレンジャーが始まりました

～未来のあきる野の自然を守る担い手として～



今年も、市内の小学校4年～6年生の目を輝かせた20名のコレンジャーが小宮ふるさと自然体験学校に集いました。この1年でそれぞれのコレンジャーが今以上に自然に興味を持って未来に向かってくれることを願っています。コレンジャーも今年で3年目に入りました。山に木を植えて森ができるように、子どもたちの10年後、20年後、彼らが自然をフィールドとして活躍していることを期待して、私たち森林レンジャーもコレンジャーと共に森に入りたいと考えています。